

## 安定冠動脈疾患患者におけるエベロリムス溶出性コバルト クロムステント留置後の急性期および慢性期の血管反応と 血小板凝集能に関する多施設共同観察研究

緊急治療を必要としない、激しい運動などをした場合にのみ胸が痛くなるといった症状が現れる「安定冠動脈疾患」の患者さんに、コバルトクロムでできているステントに免疫抑制剤であるエベロリムスを表面に塗った「薬剤溶出性ステント」(ザイエンス エクスペディション)を冠動脈に留置して、カテーテルによる治療を行います。今回の研究の目的は、このステントの留置から、1ヶ月後もしくは3ヶ月後、さらに12ヶ月後にステントを留置した部分の血管の反応を、近赤外線を用いて血管断面の像が得られるOCTという装置を用いて、時間が経過するごとのステント内の状態の変化を観察することと同時に、OCTから得られた情報と血小板凝集能との関係を調べることによって、心臓や脳などの血管で発生することがある出血による有害事象との関係を明らかにすることです。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。